

チーム	事前		チェック欄	備考
	1	チェックリストを全て確認し、別途誓約書に記載のうえ、大会主催者へ提出をする。		
	2	開催地および所属地において、政府より緊急事態宣言が発令された際、即時中止し帰宅する。その際のキャンセル規定は、チーム都合のキャンセルとあわせて、施設の規定通りの対応となる。しかしながら、不足の事態の発生状況を踏まえて都度施設と協議し、迅速にチーム責任者の方々へ伝達する。		
	3	大会参加者全員および保護者に対し、チェックリスト内容の理解に努める。		
	4	感染対策責任者は健康チェックシートにて参加者全員の体調管理を行う。		
	5	以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる事		
		・健康チェックシートに該当の際は参加を見合わせる。		
		・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる。		
		・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。		
	5	チーム内でいつでも使用できるよう、消毒液を複数持参する。		
	6	自チーム手配バスでの送迎時、密集しないよう人数を制限して運行する。		
	7	同居者以外との同部屋利用について、保護者含め同意を得る。		
8	マイタオル(ハンカチ)は普段以上に持ってくるように心がけ、共有はしない。			
9	検温器は各自準備するよう努める。チーム内で共有する場合は、都度消毒して使用する。			
10	感染対策責任者はそれぞれの地域の自治体から会場となる地域への移動制限が解除されており、会場への移動が問題なく行えることを確認する。			
11	選手・スタッフの中に濃厚接触者として2週間の健康状態観察中の人がいないことを確認する。			
現地入り後	1	無症状感染者の有無含め、「感染してしまう・感染させてしまう」という意識を持ち、主催者が定めた内容を遵守する。		
	2	会場や宿舎等において、ソーシャルディスタンスの確保を意識する。また、常にマスクを着用する。		
	3	熱中症に注意し、水分補給はこまめにとることをチーム内で意識をする。		
	4	手洗い・うがい・手指消毒はこまめに実施する(手洗い・うがいは30秒以上を意識する)。		
	5	トイレ便座使用の際の汚物流しは蓋を閉めてから行う。		
	6	トイレ使用前後に、手洗い・うがい・手指消毒を行い、ペーパータオルまたは個人タオルを利用する。		
	7	受付は1名の参加とする。		
	8	感染対策責任者は毎朝健康チェックシートにて参加者全員の体調管理を行う。各自検温は朝食前・夕食前に行う。		
	9	ミーティング実施時も3密を避けるよう注意する。また、換気を行う。		
	10	各自のゴミの共有はしない。各自のゴミは各自にて小袋に入れ密閉して縛る。		
	11	共有スペース(試合中含め)唾や痰をかくことを禁止する。		
試合前後	1	試合前後は必ず手洗い・うがい・手指消毒を実施する。		
	2	試合前後の審判・相手チームへの全体挨拶はしない。する場合は代表者のみとし、ソーシャルディスタンスを確保する。		
	3	ドリンクボトル・タオルの共有はしない。ボトルの水水漬け等も控える。		
	4	余ったドリンクは指定された場所に捨てる。		
試合中	1	ベンチからの戦術的な指示は、ソーシャルディスタンスを確保し、指示者も必要最低限とする。		
	2	ベンチメンバーはソーシャルディスタンスの確保を意識し、アップ時以外は常にマスクを着用する。		
	3	唾吐き、ドリンクの噴き出しは禁止とする。		
	4	レフェリーについても必要以上の選手への声掛けを控えるため、レフェリージャッジには抗議を控える。		
	5	飛沫防止のため、声を出した応援を禁止とする。		
	6	密集・密接(手をつなぐ、肩を組む)となる円陣は行わない。尚、密集、密接にならずに社会的距離(できるだけ2m 最低1m)を保って円になって集まることは認める。		
	7	ハイタッチ、抱擁を行わない。		
宿舎	1	マスクを常時着用する。		
	2	自部屋の換気を意識する。雨天時も工夫してできる限り定期的に換気をする。		

		3	部屋に複数人入る場合のソーシャルディスタンスの確保を意識する。		
		4	早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する。		
		5	定期的に部屋の消毒にスタッフが入室するため、各自貴重品の管理をする。		
		6	大浴場の場合は、一度に入浴する人数を制限し、分散して入浴するよう工夫する。		
		7	更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアは換気の為、開けたままとする。		
		8	着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。		
	食事	1	ソーシャルディスタンスの確保を意識する。		
		2	飲食物を手にする前に、手洗い・うがい・手指消毒を行う。		
		3	食事中、不必要な話はしない。大声を出さない。食事の共有をしない。		
		4	バス車内での飲食は控える。		
	終了後	1	2週間以内に感染症を発症した場合は、主催者へ速やかに報告する。		
	その他	1	軽度な発熱や咳・咽頭痛・倦怠感等、少しでも普段と違う症状がある場合は必ず申し出る。		
		2	試合スケジュール・結果等の確認は代表者のみとし、本部付近に密を作らないようにする。SNSから情報をとることを意識する。		
施設	会場	1	施設担当者は常にマスクを着用する。		
		2	共有スペースの入口および施設内各所へ手指消毒液を設置する。		
		3	会場各所の水場へ液体石鹸および手指消毒液を設置する。		
		4	受付用の遮断ボードを設置する（アクリル板・透明ビニールカーテン等）。		
		5	待機スペースには密を避ける表示をする。更衣室は入場制限および不必要な会話の禁止を表示する。		
		6	トイレに液体石鹸・手指消毒液・ペーパータオルを設置する。		
		7	トイレに汚物流しの際は蓋を閉めてから流す表示を掲示する。		
		8	共用手洗乾燥設備は使用不可とする。		
	バス	1	ドライバーは常にマスクを着用する。		
		2	送迎時、密集しないようソーシャルディスタンスを確保して運行する。		
		3	運転席と後部座席の間にはアクリル板・透明ビニールカーテンを設置する。		
宿舎	事前	1	チェックリスト項目の遵守および、準備をする。		
		2	宿舎スタッフは常にマスクを着用し、食事提供時は手袋も使用しチーム対応をする。		
		3	宿泊部屋は就寝スペースの2畳に1名の割合で定員とする。		
		4	共有スペースの入口および施設内各所へ手指消毒液を設置する。		
		5	トイレに液体石鹸・手指消毒液・ペーパータオルを設置する。		
		6	トイレに汚物流しの際は蓋を閉めてから流す表示を掲示する。		
		7	共用手洗乾燥設備は使用不可とする。		
		8	従業員の毎日の体温測定、健康チェックする。		
	チェックイン/アウト	1	遮断ボードを設置する（アクリル板・透明ビニールカーテン等）。		
		2	3密を避けられる、待機スペースを確保する。難しい場合は3密にならないように工夫する。		
	食事	1	ソーシャルディスタンスを確保し、対面利用は控える。		
		2	対面利用する場合は、アクリル板・透明ビニールカーテンにて遮断する。		
		3	できる限りバイキング提供は無くしセットメニュー提供とする。ご飯・汁物等のお替わりはスタッフ対応または小皿対応とする。難しい場合は手袋とアルコール消毒を設置する。		
		4	コップ、箸など、触れるものは適切に洗浄・消毒をするか使い捨てを利用する。		
		5	食事前後含めて、食事中は会場の換気を強化する。		
		6	食後片付け後の手洗い・うがい・手指消毒は徹底する。		
	その他	1	共用スペースや備品は感染リスクが高いことを意識し、こまめに消毒をする（ドアノブ・ドライヤー等）。		
		2	他人と共有する物品や手が頻繁に触れる箇所を工夫して最低限にする。また、こまめに消毒をする。		
		3	食堂や浴場等、密な状況が想定される場所においては、入場制限を行う。		
		4	タオルやコップ等の貸し借り・共有を禁止する。		

感染疑い時	5	部屋清掃時、使用後のタオル・リネン類の回収後は人が触れないように密閉保管する。		
	6	可能であれば洗濯機・乾燥機を団体ごとに振り分ける。		
	7	チェックイン前、チェックイン後、宿泊部屋の定期的な消毒を行う。		
	1	客室内で待機し、マスク着用を要請し、外に出ないように願う（同行者も同様）。		
	2	事前に他の宿泊客と区分して隔離部屋を決めておく。		
	3	食事も客室に届け、他との接触を避け、対応するスタッフとチームスタッフも限定する。		
	4	保健所に連絡し、感染疑いの状況や症状を伝え、指示に従う。		
	5	当日の宿泊者名簿を確認し、保健所への提出に備える。		
弁当	6	館内のお客様への情報提供は保健所の指示に従う。		
	1	配達時、マスクと手袋を着用する。		
	2	可能な限り人の手がふれないよう、配達場所・回収場所・回収方法を工夫する。		
	3	チーム毎のゴミ袋と衛生手袋を別添えする。		
審判	4	1人1つ、「小分けされた除菌液」の提供を検討する。		
	1	健康管理表を大会本部に提出し、健康状態の確認を行う。		
	2	試合前のセレモニーは控え、コイントスもキャプテン同士の距離を2 m以上確保する。		
JSP	3	第4の審判員は原則としてマスクを着用し、4thベンチに複数名が入らないようにする。 (人と十分な距離(少なくとも2 m以上)が確保できる場合には、マスクをはずすことができる)。		
	1	関係者全員が感染防止策を実施してもらっていることを意識する。		
	2	マスクは常に着用する。		
	3	開催日前日までに、施設・宿舎と調整したガイドラインが遵守されているかを確認する。		
	4	スタッフの毎朝・毎夕の体温測定、健康チェックを行う。		
	5	スタッフ・参加者でも3密にならない・ソーシャルディスタンスの確保意識を徹底する。		
	6	熱中症に注意し、水分補給はこまめにとることと、参加者へとらせること。		
	7	受付は電子的な実施を検討する。		
	8	対面する場合は、アクリル板・透明ビニールカーテンにて遮断する。		
	9	本部内の換気を徹底することと、入場制限をして密を避ける。		
	10	ゴミを処理する際は、手袋も着用し、終了後は手洗い・うがい・手指消毒を徹底する。		
	11	共有スペースの入口および施設内各所へ手指消毒液を設置する。		
	12	他人と共有する物品や手が頻繁に触れる箇所を工夫して最低限にする。また、こまめに消毒をする。		
	13	感染症発生の場合の対応方針について、施設および開催自治体の衛生部局とあらかじめ協議する。		
	14	終了後の感染症発症状況の確認をする。		
15	導入が検討されている、スマートフォンの接触確認アプリの活用を検討する。			